

畜産日報

DAILY MEAT & LIVESTOCK

●発行所 株式会社 **食品産業新聞社**

本社 〒110-0015 東京都台東区東上野 2-1-11(サンフィールドビル) TEL03(6231)6093 FAX03(5830)1570
大阪支局 〒530-0044 大阪市北区東天満 1-11-15(若杉ランドビル別館) TEL06(6881)6851 FAX06(6881)6859
ホームページ https://www.ssnpc.co.jp E-mail:chikusan@ssnp.co.jp

●購読料(前納、税込) 6ヵ月 40,716円 1年 79,056円 電子版6ヵ月 41,470円 1年 80,520円

焼肉商材(輸入・国産)
専門の卸と加工



フカセ食品株式会社
〒108-0023
東京都港区芝浦3-13-2 Yビル
Tel.03-3452-0346 FAX03-3452-1985

2023年(令和5年) 5月19日 金曜日 第15488号

CONTENTS

禁無断転載

- 【輸入豚肉、国産凍結豚肉仲間相場】輸入・国産ともに荷動き一服感 2
- 【関東プロイラー国産品、輸入品仲間相場】モモの消化が課題、ムネ需要高まる 2
- 4月輸入は牛肉6.7万t、豚肉12.0万t、鶏肉4.4万tか—貿易速報から推計 . . . 3
- 肉類合計で32.3万tと単月で過去最高、豚肉など関税削減で通関が集中する . . . 3
- 「JOIN! オージー・ビーフで元気、はじまる! キャンペーン」開始—MLA 3
- 石垣牛流通協議会、植村会長らを再任、PRなどに拠出する奨励金導入を承認 . . . 4
- 「仮面ライダー ギーツ」フィッシュソーセージ 第3弾—丸大食品 4
- 松田産業がインド産「粒状大豆たん白(TVP)」の取り扱いを本格開始 5
- 「ポークピッツ」新CMの放映を開始、販促キャンペーンも実施—伊藤ハム . . . 5
- 【23年春の輸入豚肉特集・海外パッカーの動向】 タイソン・ジャパン 6
- 日本向けシェア拡大、来期を見据えた差別化に向けた取組みにもチャレンジ . . . 6
- ニューージーランド産グラスフェッドビーフ・ラムの魅力を紹介—NZTE 7
- 持続可能な生産を目指しサステナビリティ、アニマルウェルフェアに取り組む . . . 7
- 4位にまろやかジギスカン300g×3が上昇—4月POSその他加工肉 7
- △ 牛枝肉相場・豚枝肉相場・流通センター豚部分肉相場(18日) 8
- 資料—POSデータ売れ筋商品ランキング⑥(23年4月・その他加工肉) 9
- △ 食肉流通センター輸入豚肉・輸入牛肉部分肉相場(5月1日~15日) 10
- 資料—2023年3月分・食肉関係輸入通関実績⑦ 11



食品産業のトレンドを読む食品の総合紙

いま、食品産業はインターナショナル、ボーダレスの時代。異業種、他の業界がどのような動きにあるのか、また、食品産業のトレンドは何か。食肉業界にとっても、食品産業全体の動きを先取りし、新たな動きに対応していくことが求められています。そのニーズに応えるのが「食品産業新聞」です。

発行:週2回(月、木曜日) ブランケット判、購読料: 6ヵ月24,840円(税込)

○ 石垣牛流通協議会総会、植村会長らを再任、PRなどに拠出する奨励金の導入を承認

石垣牛流通協議会(会長=植村光一郎・ニイチク監査役)は17日、東京都新宿区の京王プラザホテルで2023年度総会を開き、22年度事業報告、23年度事業計画・収支予算などの議案を原案通り承認した=写真④。林芳正外務大臣をはじめ、中山義隆石垣市長、前田典男JAおきなわ代表理事長、姫田尚中央畜産会副会長、中林正悦全国肉牛事業協同組合理事長ほか、総会には多数の来賓が出席した。役員改選では、植村会長、笹英典副会長(エムアイフードスタイル執行役員商品統括本部長)らが再任された。チェックオフ制度の改正案として、プロモーション実行や招致活動などに拠出する奨励金の導入が承認された。



来賓からは、林外務大臣ほか4人があいさつした。林外務大臣(=写真⑤)は、「植村会長とは、私が農水大臣を担当していた時からの長い付き合いになる。今どんどん和牛は



世界で売れるようになり、恐らく生産や流通にまだ課題はあるだろうが、世界で押しも押されぬブランドとなっている。フードエキスポで訪問した香港や、マカオなどスーパーに行くと、我々の和牛が米国や英国産の牛肉の10倍売れるようになっている状況で、大変嬉しい限りだ。これからもこういう大きな流れの中で、ブランド化することによって付加価値をつけて、なるべくそれが川上にある生産者の元に還元されるよい流れを、この協議会で作ってもらったと思っている。皆さまの今後の生業のさらなる発展をご祈念する」とあいさつした。

開会で植村会長(=写真⑥)は林外務大臣ほか来賓への感謝を述べ、「石垣牛流通協議会では、まず消費者に食べてもらうための取組みを実践している。消費者に石垣牛を食べてもらい、そのおいしさのわけを知ってもらう。次にその生産工程の優位性について、きちんとした形でアピールしていく。その後には、生産者、流通事業者、消費者がそれぞれ石垣牛を食べることに感謝してフードチェーンを作っていく。さらには、現在構築を進めている、首都圏に向けての需給関係が完成した暁には、世界に向けて石垣牛の需給関係を求めるといった形で価格の安定を図ろうと考えている。このような形で切磋琢磨しているので、協力をお願いしたい」とあいさつした。

続いて、中山石垣市長が石垣牛の供給量増加と品質向上を目指すとして述べ、「国際戦略なども考えており、石垣島の食肉センターが今、マカオとタイのHACCPの資格を取得している。今後、香港とほかの仕様にも生かせるような衛生管理体制にしようとしている。国内でも知名度を上げ、東京を含めた大市場のなかで満足できる量を供給しながら、次の手を考えていきたい」と述べた。

当日は記念講演会も開催され、伴光氏(農林水産省畜産局食肉鶏卵課課長補佐)が「我が国の最近の牛肉輸出をめぐる情勢」と題し、講演を行った。